

* 今年、2 名と一緒に、ダニエルさんとロンさんのお宅（East Marion という小さな町にあり、邸宅から東に 1 時間くらいのところ）と、ジョディさんとポールさんのお宅（Manorville という町にあり、邸宅から 15 分くらいのところ。ショーンさんはご長男）に、それぞれ 2 泊 3 日でホームステイをした。

静岡県立吉原高等学校 2 年

有泉 美夢

私がこのプログラムに参加した理由は 2 つあります。

まず 1 つ目は、将来英語に関わる職業に就きたいと考えているからです。私は中学生の頃から留学に興味を持っていて、国際科のある高校へ進学することを決めました。高校に入学して、国際科でセミナーがあり、そこで海外のいろいろな方々と出会い、より留学に興味を持つようになりました。そのときに、このプログラムがあることを知り、ぜひ参加したいと感じ、応募しました。

2 つ目の理由は、ジェンダーなどのダイバーシティに興味があったからです。日本はまだ海外のようにジェンダーに関する取り組みが進んでいないと感じています。日本と比べると、ニューヨークには多様な人々が集まります。そこではジェンダーに対してどのような意識を持っているのか、また、どのような配慮がされているのかに興味を持ち、自分の目で見てみたいと思いました。

次に、この 10 日間で学んだことについてです。

私たちは 2 日目にタイムズスクエアを訪れました。ニューヨークではいろいろな場所に行くことができました。セントラルパークを訪れたり、サークルラインに乗って自由の女神やブルックリン橋など、美しい景色や建物をたくさん見たりすることができました。デモを見る機会もありました。

その中でも、一蘭と FAO シュワルツを訪れたことが印象に残っています。一蘭のトイレは男女兼用のトイレのみで、男女別のトイレはありませんでした。日本にもこのよう

なトイレはありますが、すべてが男女兼用だったので少し驚きました。FAO シュワルツでは、車椅子の方も通れるようにスロープが付いていましたが、それが目立つことなくデザインに組み込まれていたことを覚えています。どのような方でも楽しめる工夫がされていて、すごいと感じました。

3日目から5日目は、ロンさんとダニエルさんのお宅でホームステイをさせていただきました。ダニエルさんは日本が好きで、訪れたことがあると話してくださいました。

ダニエルさんのお宅で学んだことは、言葉が十分に通じなくても会話をするということです。ダニエルさんもロンさんも、娘のマヤさんも日本語を話すことができますでした。私も英語をしっかりと話すことができないため、話したいことをうまく伝えられないこともありましたが、翻訳の力を借りたり、それぞれが分かる言葉で簡単に話したりするだけでも会話になり、どんどん仲良くなることができました。

プライベートボートやカヤックに乗せていただいたり、ピククルボールをしたり、家の中にあるエアホッケーで遊んだりしました。夜にはアイスクリーム屋さんに連れて行ってくださり、みんなでアイスを食べたり、水族館にも連れて行っていただきました。

コミュニケーションを取ることが難しいにもかかわらず、ボートに乗っているときには場所の説明をしてくださったり、水族館では魚の説明をしてくださったりと、たくさん会話をすることができ、英語のスキルアップにもつながったと強く感じています。家族みんなで映画を見るなど、本当に多くの楽しい経験をすることができました。

6日目は、ジャパニーズカルチャーセンターを訪れました。ここでは、日本語を学んでいる方々と一緒におにぎりを作ったり、ピザを食べたりしながら、たくさんお話をしました。ジャパニーズカルチャーセンターの生徒さんが作ったゲームソフトで遊んだり、海外の学校について質問をしたりと、交流することができました。

その後は図書館で、学校に行けない子どもたちのためにペンケースとボードにデコレーションをするというボランティア活動に参加しました。ニューヨークの同じ年頃の子たちも多く参加していました。ここでは各自で作業を進める形だったため、ニューヨーク

の学生さんとあまりお話しすることはできませんでしたが、ニューヨークに来てボランティア活動にも参加することができ、少しでも力になることができてよかったです。

7日目から9日目は、ショーンさんのお宅でホームステイをさせていただきました。

ショーンさんは日本語を4か月ほど勉強していて、驚くほど日本語を話すことができ、私たちの日本語も聞き取ってくれました。ショーンさんは、お宅にお邪魔したときにすぐプレゼントを渡してくださるなど、とても親切にしてくださいました。

ショーンさんとはショッピングに行ったり、弟のライアンさんと UNO をしたり、ギターを演奏してもらったり、お庭でスモアを作ったり、ボウリングに連れて行ってもらったりしました。9日目には、ライアンさんのアイスホッケーの試合を見ることができました。日本では見たことがなく、生で見る試合はとても迫力があり、選手同士の接し方など、日本とは違うところをたくさん見つけることができました。日本とは盛り上がり方も違って面白かったです。

ショーンさんのお父様のポールさんは日本語を話せませんが、翻訳を使いながら面白おかしく会話をしてくださり、私たちの緊張をほぐしてくれました。そのおかげもあり、私たちが日本のことを教えたり、英語で会話をしたりすることで、英語力を高めることができたと思います。

また、ショーンさんとはたくさんお話をすることができました。日本のアニメの話ですごく盛り上がり、自分の好きなアニメやキャラクターなど、共通して話せる話題があると、英語が分からなくなってしまうとしても気持ちで通じ合うことができ、すごく楽しい時間を過ごすことができました。

8日目には、プールパーティーがありました。プールパーティーには多くの方がいらして、俳優さんや音楽関係の方など、さまざまな経験をしてきた方々からお話を聞くことができ、相談にも乗ってくださいました。

一人ひとりがすごい経験をしてきた方ばかりで、今後の生き方の参考になるお話を聞くことができました。ここで聞いたお話は、絶対に将来につなげたいと感じました。助け

を求めることの大切さと、挑戦することの大切さ、そして「若ければ何でもできる！」という気持ちの大切だと教えていただきました。

「助けてほしいければ、俺に言えば助けてやる」と、カッコいいことを言ってくださった方もいて、学ぶことの多い1日でしたが、とても楽しく過ごすことができました。

私たちは、このプログラムを通して本当にたくさんの方々と出会うことができました。大人から子どもまで、さまざまな年齢の方とお話をすることができ、学んだことも多かったです。

この10日間は本当にあっという間で、とても濃い10日間でした。このプログラムを作ってくださり、私たちを選んでくださった望月さんには、感謝してもしきれない思いでいっぱいです。

この経験は、私の人生の中で大きな存在となると思います。今までに経験したことのないことばかりで、いっぱいいっぱいになってしまうこともありましたが、今回経験できたことを必ず自分の将来につなげ、自分の力にできるよう、英語の勉強にもより一層力を入れ、さまざまなことにチャレンジして成長していきたいです。

本当にありがとうございました。